

第39回報農会シンポジウム  
『植物保護ハイビジョン—2024』のご案内

——「みどりの食料システム戦略」に関する植物保護分野の重要課題——

**趣 旨**：2021年に農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」は、地球温暖化、農業の担い手の減少・高齢化、鳥獣害の被害拡大、さらにコロナ禍など、農業を取り巻く『負の変化』に抗して、広く食料産業・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を長・中期的なイノベーションによって実現させようという遠大な計画です。この中には当然植物保護分野も組み込まれており、目的達成には発想の転換とイノベーションが必須です。今回のシンポジウムでは、「みどりの食料システム戦略」に関する植物保護分野での取り組みの中からカギとなる課題を選び、それぞれのエキスパートに話題提供いただくことになりました。講演内容は、第1課題と第2課題は地球温暖化に伴う病害虫の動向に関する話題で、第1課題は総論、第2課題は各論（カンキツグリーニング病の媒介昆虫ミカンキジラミを事例に）です。第3課題は農薬による環境負荷をいかに軽減できるか、線虫剤を例に現状から今後の展望までの解説です。第4課題は農業環境保全の基礎である生態系保全がいかにあるべきか、農生態学（アグロエコロジー）からの提言です。第5課題はイノベティブな害虫防除法（振動の利用）やGAPに取り組む実践農家からの報告です。5年ぶりに会場での開催（オンラインとのハイブリッド）となります。多くの皆様のご来場・ご参加を心からお待ちしています。

**主 催**：公益財団法人 報農会

**協 賛**：一般社団法人日本応用動物昆虫学会、一般社団法人日本植物病理学会、日本農薬学会、一般社団法人日本雑草学会

**日 時**：令和6年9月25日（水）10:50～15:30（ハイブリッド型開催）

**場 所**：「北とぴあ」つつじホール（東京都北区王子1-11-1） URL：<https://www.hokutopia.jp>  
JR京浜東北線王子駅北口より徒歩2分、東京メトロ南北線王子駅5番出口直結

<プログラム>

**開 会**：10:50～10:55 挨拶

報農会理事長 田付 貞洋

**講 演**：10:55～11:40 地球温暖化が病害虫発生に及ぼす影響

農研機構農業環境研究部門土壌環境管理研究領域 山村 光司

11:40～12:25 地理情報システム(GIS)を活用した国内におけるミカンキジラミの定着可能地域予測 農研機構果樹茶業研究部門果樹生産研究領域 紺野 祥平

12:25～13:15 休憩

13:15～14:00 線虫剤を取り巻く状況（市場と開発動向について）

アグロ カネショウ株式会社 中村 元太

14:00～14:45 Agroecology・アグロエコロジーそして農生態学：有害生物管理における基礎的な話題から 愛媛大学大学院農学研究科 日鷹 一雅

14:45～15:30 トマト生産現場での取り組み：GAP、振動による害虫防除 株式会社未来彩園 瀬尾 誠

**参加費**：3,000円（講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合2,000円）

**申込み**：報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧ください。申込用紙に必要事項を記入して、メール又はFAXでお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後同じ会場（同じURL）で、報農会主催第39回功績者表彰式を行います。（15:45～16:15 功績者表彰式、表彰式終了後祝賀会：参加費5,000円）

**連絡先**：公益財団法人報農会 事務局

TEL/FAX：03-5980-8773 E-mail：[khono511@car.ocn.ne.jp](mailto:khono511@car.ocn.ne.jp) URL：<https://honokai.org>

# 功績者表彰式のお知らせ

植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式について、この3年間は新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインによるライブ配信で行いました。

本年度第39回表彰式は従来の会場開催に戻してハイブリッド型で開催することとし、シンポジウム終了後に以下のとおり開催いたします。お時間の許す方は是非ご出席の上、祝福を賜りたくご案内申し上げます。なお、表彰式のあと祝賀会も開催いたします。

開催日時：令和6年9月25日（水） 15:45～16:15

開催場所：「北とぴあ」つつじホール（祝賀会会場は北とぴあ17階「QUAD17」）

## 第39回功労賞受賞者（3名：五十音順）

### 片岡 光信 氏（かたおか みつのぶ）

- 職歴 京都府農業総合研究所、同病害虫防除所、府庁農林水産部理事
- 業績 ○ハウレンソウ斑点病の発生状況を調査し発生環境を明らかにするとともに、雨除けハウスが効果的であること、ほ場排水が大切であることなど防除法の確立に貢献された。
- カブ（スグキナ）バーチシリウム黒点病について、各種調査をもとに病原菌を明らかにするとともに、薬剤防除法を確立された。
- 専門技術員時に普及職員に対し研修等を通じ技術や知識の向上に努めるとともに、ホームページ上に「Web 病害虫図鑑」を作成するなど尽力された。

### 深谷 雅子 氏（ふかや まさこ）

- 職歴 秋田県果樹試験場、同県農林水産技術センター
- 業績 ○ブドウ芽枯病（新病害）の発生生態を解明するとともに、有効な防除薬剤を選抜し、防除方法の確立に貢献された。
- 難防除病害であるブドウ晩腐病について、発生生態を詳細に検討し、気象条件と合わせて一次感染時期を予測する方法を見出すとともに、有効な薬剤の適期散布による効率的防除方法を確立、普及に尽力された。
- ナシ炭疽病、輪紋病など病害について、病原菌の発生消長を明らかにし、伝染源対策及び果実感染防止のための防除方法の構築に寄与された。

### 矢野 貞彦 氏（やの さだひこ）

- 職歴 和歌山県農業改良普及所、同県農業試験場、同県植物防疫協会
- 業績 ○水稻病害虫の発生予察について、定点巡回調査データの集計を手計算からコンピュータ処理に変更し、情報提供の迅速化に貢献された。
- ハウスイチゴ栽培におけるハダニ類防除について、チリカブリダニ放飼による防除方法を現地で実施し条件検討を行い、実用化に向け尽力された。
- ムッテンアザミウマの発育・増殖と温度との関係を詳細に調査して、発生生態の解明に寄与された。